

故事成語「虎の威を借る狐」確認テスト（戦国策） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 子敢へて我を食らふこと無かれ。

※「無（なかれ）」は禁止を表し、文末に置く形に読む。「敢へて～無かれ」で「決して～するな」。

問2 あなたは決して私を食べてはならない。

※「子」は二人称「あなた」。狐が虎に向かって言っている言葉である。

問3 禁止（「決して～してはならない」という強い禁止）を表す。

※「無敢～」は「敢へて～こと無かれ」と読み、「あえて～するな＝決して～してはならない」の意。

問4 天帝我をして百獣に長たらしむ。

※「使（しむ）」は使役の助動詞。「我をして…しむ」と読む。

問5 天帝が私を百獣のかしら（統率者）になさった。

※「長たり」は「かしらである」。天帝が狐を百獣の長に任命した、という主張。

問6 使役。

※「使（しむ）」+「我をして」で「私に～させる」。「天帝が私を長にさせた＝長にした」と訳す。

問7（いま私を食べれば、）それは天帝の命令に背くことになるのだ。

※「是」は、直前の「今子食我（今あなたが私を食べること）」を指す。

問8 逃げる。

※古典の「走」は「（速く）逃げる」の意で用いられることが多い。「獣見之皆走」も「獣は皆逃げた」。

問9 子我を以て信ならずと為さば。

※「以A為B」は「AをもってBとなす＝AをBだと思ふ」。「信ならず」は「本当ではない・うそだ」。

問10 あなたが私を（うそつきだ・）信用できないと思うなら。

※「信ならず」＝「真実ではない、信用できない」。仮定として「もし～と思うなら」と読む。

問11 読み…「ために」。意味…「～のために」。

※「吾子の為に先行せん」で「私はあなたのために先に行こう」。ここの「為」は前置詞「ために」。

問12 百獣の我を見て敢へて走らざらんや。

※「敢へて～ざらんや」と読む反語の形。

問13 あらゆる獣が私を見て、どうして逃げないことがあろうか（いや、必ず逃げる）。

※反語なので「みな必ず逃げるはずだ」という強い断定の気持ちを表す。

問14 反語（「どうして～しないことがあろうか、いや必ず～する」）を表す。

※「敢不～乎」＝「敢へて～ざらんや」。形は否定の疑問だが、内容は強い肯定。

問15 「私（狐）の後について来れば、獣たちは皆逃げるはずだ。それは私が百獣の長だからだ」という狐の言い分を、そのとおりに思った。

※虎は狐の主張（天帝が狐を百獣の長にしたという話）を信じてしまった。

問16 狐の後について歩いてくる虎の姿（＝虎そのもの）を見て逃げた。

※獣たちは、狐の後ろにいる虎を恐れて逃げたのである。

問17 獣たちは、狐ではなく、その後ろにいる虎を恐れて逃げた。

※本当に恐ろしいのは百獣の王である虎であり、狐の威光ではない。

問18 虎は、獣たちが自分（虎）を恐れて逃げたことに気づかず、狐を恐れて逃げたのだと思い込んだ。

※「虎不知獸畏己而走也、以為畏狐也」がその誤解を述べた部分。

問19 自分（狐）は天帝に百獣の長に任じられた存在だから、獣たちは自分を恐れて逃げるはずだ、と主張する論理。実際には後ろの虎を恐れて逃げているのに、それを自分の威光のように見せかけている。

※他者（虎）の力を、あたかも自分の力であるかのように利用する論理である。

問20 自分には実力がないのに、力のある者・権勢のある者の威光をかさに着て威張ること。

※他人の権威を借りていばる態度を批判的にいう。

問21 虎…本当に力（権勢）を持っている者。狐…その力を借りて威張る、実力のない者。

※「威を借りられる側」が虎、「威を借りる側」が狐。

問22 『戦国策』（楚策）。

※前漢の劉向が整理・編集した書物で、戦国時代の遊説の士の言論などを国別に収める。